

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	静岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	御殿場市立原里中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	1	13	25
生徒数	145	129	159	4	437	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力を目指した少人数指導の工夫」～個に応じた指導のあり方～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

少人数習熟度別指導

- ・1年生～3年生 数学科 生徒の理解の状況に差が出やすいため
- ・2年生3年生 英語科 難易度が高くなり生徒の理解度に差が出やすいため

TT

- ・2年生 理科 実験や観察を中心に実体験を通した学びを重点とするため

少人数(ハーフクラス)指導

- ・3年生 技術・家庭科 安全で効率的な作業を目指すため

少人数指導

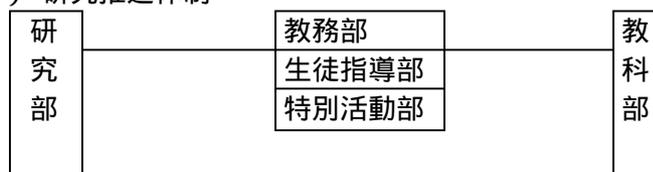
- ・1年生～3年生 総合的な学習 生徒の課題に対応するため

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力を目指した少人数指導の工夫」</p> <p>研究の見通し</p> <p>学習のつまずきに対して適切な支援を受けることによって、「わかった」「できた」体験を継続的に味わえば、自信が付き学習に対して意欲がわいて確かな学力を身につけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 確かな学力の定着を図る指導方法</p> <p>(2) 確かな学習の定着を図る評価のあり方</p> <p>(3) 確かな学力を定着させる指導形態の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート ・提案授業と授業分析 ・評価と指導の一体化を視点とした提案授業 ・学力の定着度調査 ・評価規準の見直し

平成 16 年 度	<p>テーマ 「確かな学力を目指した少人数指導の工夫」 研究の見通し こどもの実態を把握し、適切な課題を投げかければ意欲的に課題解決に取り組み、互いの練り合いや教師の支援によって確かな学力をつけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 確かな学力の定着を図る指導方法 (2) 確かな学習の定着を図る評価のあり方 (3) 確かな学力を定着させる指導形態の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒アンケート ・ 単元構成と提案授業 ・ 評価方法の検討 ・ 学習カルテ（評価カード）の作成
--------------------	---

(3) 研究推進体制



* 適宜、拡大研究部を組織

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>基礎・基本を重視した教科指導 数学基礎コースでの百マス計算の継続的な実施 5教科（国・社・数・理・英）の基礎・基本の到達を評価する EA（evaluation assessment）の実施 EAによる到達度評価 教師の分析と生徒の自己評価ができるテスト 習熟度別コース決定のための学習相談に利用 習熟度別少人数指導による個に応じた指導 生徒の希望コース EAの結果で移動 教材開発 <基本 応用 発展プリント> 弾力的な運用の必要性（単元運用 演習運用 課題別運用等） 少人数（ハーフクラス）の作業効率と安全性 生徒への支援が十分できる 生徒は作業を待たずにできる 各種検定への挑戦 英語検定 準2級3人 3級46人 4級92人 国際数学検定 3級11人 4級8人 5級6人 漢字検定 準2級7人 3級27人 4級35人 その他文章検定 歴史検定 理科検定 常識検定 パソコン検定等に挑戦してきた</p>
